

「北極圏旅行記 2017 夏 (26)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/31 ロフォーテン諸島のドライブ～

飛行機の撮影が終わり、ロフォーテン諸島最後のドライブが続く。幸い天気も、少しずつ良くなってきたようだ。旅行の印象は、天気によって大きく変わる。特に自動車の旅は、晴れた日にしたい。



静かな湖のように見えるが、これも海である。汀線に海藻がたくさん見える。海なので、当然干潮満潮も見られる。入江の向こうに街が見える。北極圏にありながら、赤道付近からの海流（北大西洋海流の分流のノルウェー海流）の影響で、比較的温暖で、冬でも海が凍らない。海岸は生活しやすいと言える。



草原の中に、鉄道模型のストラクチャーのような小屋が一軒あった。窓もロフトもあるので、納屋ではなく、人の為の小屋である。誰かの別荘だろうが、水道や電気はどうしているのか、それが不思議だった。



山頂付近は雲に覆われているものの、すぐそばに岩山も見えてきた。谷間には雪も残っている。7月下旬に雪があるのだから、恐らく万年雪だろう。



海岸を離れて、隣の湾まで山道を走ると、このような美しい湖があちこちに見られる。日本の湖とちがって、直接岩盤の窪みに水がたまっただけなので、透明度が非常に高く、岸からは青々と見える。



この湖水も、国道脇にある。湖畔にキャビン建てて、ゆっくり眺めたい風景だ。



しばし雲がはれて、岩峰が全容を見せることもある。ロフォーテン諸島のドライブでは、天気良ければこうしたアルペン的な景観を眺めることができる。



こんな山小屋風の民家もある。どう見ても山の中の風景だが、ここは海拔0メートル。この民家のすぐ向かい側は海である。



これが上写真の民家の向かい側の風景。「山の中に海がある」というのが、ロフォーテン諸島の景観の一つの特徴と言える。



国道沿いには、30~50kmごとに、小さな街が存在する。大抵は小さなスーパーがあり、それに併設されてガソリンスタンドがある。ガソリンは高い。1リットルあたり、200円程度である。



最後の橋を渡って、ノルウェーの本土に到達した。見えてきたのは、ヴェスト・フィヨルドの海面だ。フェリーで湾口を渡った、長大なフィヨルドの最奥部に達したことになる。



スウェーデン国境に向けて、山脈を上ってゆく。